

まんが王国・土佐推進協議会総会平成 29 年度第 1 回総会（概要）

日 時：平成 29 年 9 月 22 日（金）13:30～15:00

場 所：高知城ホール

出席者：まんが王国・土佐推進協議会委員 17 名（うち代理出席 1 名）

監事 2 名（うち代理出席 1 名）

（1）議 事

事務局から次の議案について説明があり、承認された。

第 1 号議案 平成 28 年度まんが王国・土佐推進協議会事業報告及び収支決算

（2）報告事項

事務局から次の報告事項について報告があり、承認された。

第 1 号報告 平成 29 年度まんが王国・土佐推進協議会収支予算

第 2 号報告 平成 29 年度「まんが王国・土佐」ブランド化の推進について

<まんが王国関係>

- ・第 26 回まんが甲子園(平成 29 年度全国高等学校漫画選手権大会)の実施について
- ・ニコニコ超会議 2017 への出展について
- ・ワンダーフェスティバルへの出展について
- ・まんが王国・土佐ポータルサイトの運用について
- ・まんが教室の実施状況について
- ・まんが観光案内板整備事業について
- ・新竹県との覚書の締結について

（3）協議事項

次の協議事項について、事務局からの説明、事業推進部会部会長からの提案の後、意見交換が行われた。

第 1 号協議 まんが甲子園海外参加校の取り扱いについて

第 2 号協議 全国漫画家大会議 in まんが王国・土佐について

第 3 号協議 平成 30 年度「まんが王国・土佐」ブランド化の推進について

第 1 号協議 まんが甲子園海外参加校の取り扱いについて

【A 委員】

○今年のまんが甲子園を拝見して大変素晴らしいと思ったが、甲子園と名が付くからには日本の頂点を目指すという意味が込められているのではないかと。名前が変わるのであれば違和感はないが、甲子園という名前がある以上は（海外を別枠においた）二段構えの方がよいのではないかと。

【B 委員】

○高知市の姉妹都市であるインドネシアのスラバヤ市から日本に来て看護師の資格を取って高知市で働いている方がいるが、なぜ日本に来たかというアニメーションが大好きだからとのこと。それだけアニメの評価は高いし、アニメ好きの方もたくさんおられる。

しかし、海外とは文化の違いから笑いのツボなど色々と異なると思うが、今年のまんが甲子園で海外校も日本校と合わせて審査をした感想を聞きたい。

【C 委員】

○審査をした感覚としては、海外校は日本のまんがのオチをつけるコツの様な独特の感覚はないように思うので、不利かと思う。韓国の決勝作品以外は、海外校の作品はすべて、オチがつけられていなかった。しかし、国内校と海外校を分けて審査することには違和感がある。国内校と海外校が一緒に戦うことで、日本のまんが独特のテイストが世界に広がる手助けにもなるだろうし、本当に国の壁を越えた思い出ができるのではないかな。

【D 委員】

○まんが甲子園の様子を見るのは今年で2回目だが、海外校が国内校と同様の審査対象となった今大会は、海外校のモチベーションが違うと感じた。審査の状況を拝見したが、言語の違いでどこの学校か特定できてしまうところは難しいと感じた。日本のまんがとは異なる感覚を理解して平等に審査しようとする審査員の苦勞が見えた。

○生徒のモチベーションを考えると、日本の学校と異なる扱いを受けたという印象や疎外感を与えないためにも審査を一緒にする方がよいと思う。

○名古屋市の大須商店街が、7月の終わりから8月頃にコスプレサミットというアニメに徹したサミット開催をしており、世界的なコスプレの聖地となっている。まんが甲子園も海外にもっと枠を広げて、そのようになっていけたらよい。

【E 委員】

○これまで番組作りなどで3年程まんが甲子園を見てきたが、海外校に対してもフェアな審査がなされていたことに感動した。

○結論から言うと、国内校と海外校を混ぜて戦わせる方が、ドラマチックな展開がみられてよいのではないかな。例えて言うと、柔道の無差別級のように、純粋なまんがの巧さで競い合えるような甲子園になればよいと考えている。

【F 委員】

○海外校に対し、1年だけオープンにしてまた門戸を閉じるのは、制度的にどうかと思う。一定期間海外校も同じく審査する形態を継続したうえで、それでも日本の高校の最優秀を決めたいということであれば、新たな賞を創設して日本一とすることも考えてみたらよいと思う。

【G 委員】

○現在のネーミングで海外も混ぜて競技をすることに違和感がある。今後、国際的に広げていくのであれば、30 回大会のような節目の大会にネーミングを世界まんが選手権にするなど将来的な展望を持って取り組みを進めていければ、海外校も快く受け入れられるのではないかと。

【H 委員】

○海外と競技ができるのは、日本の高校生にとっても異文化に触れられる絶好の機会である。
○制限的に考える必要はなく、どうしたら世界に飛び立っていける大会になるかなど視点を変え、考える方が良いのではないかと。まんがもいずれ地産外商の格好のよい発信力につながるだろうし、できるだけ世界へ発信できるような機会を設けるべきでないかと思う。

【A 委員】

○甲子園という名称が引かかるだけで、海外校と一緒に審査すべきでないということではない。

【I 委員】

○サンリオでは世界各国にデザイナーがいるが、彼らが一週間東京のデザイナーとデザインを描き上げるという研修を設けている。どの国のデザイナーも日本に来るのを憧れ、文化やキャラクターを学びたいという意欲があり、この研修を取り入れたことで、全体の技術が上がった。
アジアに限らず、ブラジルやヨーロッパにも優秀なデザイナーがたくさん存在する。まんが甲子園もアジアに限らず、色々な国から参加できる方がよいと強く感じる。

【J 委員】

○映画は早くから国の別なくやっている。まんが甲子園も度量広く世界に開いていくべきだと思う。

【K 委員】

○まんが甲子園に参加するのは今年で5回目だが、韓国の技術が最初に出場した頃に比べると格段に上がったのを感じる。その刺激がいずれ国内校の実力の向上にもつながるのではないかと。

【L 委員】

○大相撲、ゴルフなども海外勢が活躍している。発展の方向性を考えると多くの意見のとおりだと思う。

第2号協議 「全国漫画家大会議 in まんが王国・土佐」について

【D 委員】

○今年の漫画家大会議では、「おきゃく」に集まっている方に漫画家が「おきゃく」で楽しむ姿を見ていただけたのがよかったと思う。
○「漫画家との出会い in おきゃく」というのが、面白いと感じる。地元県民を巻き込んで、県民のまんがに対する思い入れを強められたらよい。お酒文化なのでお酒をきっかけに何かできれば面白い。

【C 委員】

○昨年参加された漫画家の反応はどうだったのか。

(事務局回答) ⇒口頭での評価だが、高い評価をいただいた。

○ぽけまんの方と食事をする機会があったが、その際に、これほど漫画家を後押ししている県は他にないと言われ(自分も)再認識した。

○全体的に充実してきて、手応えのあるイベントになってきたように思う。

○「漫画家との出会い in おきゃく」での SNS の発信案は、漫画家の先生方に楽しんでいただき、その様子を漫画家のフォロワーに拡散してもらうという、シンプルだが効果の見込めるアイデアではないか。

○フットサル大会は、漫画家大会議の運営者だけではなく、他とのコラボや繋がりを持てるのが良いと思う。スポーツに限らず、各種文化団体となど、県を挙げて漫画家大会議の盛り上がりをつくれたらよい。トークショーを DVD に焼いて先生方に差し上げるなど後々思い出してもらえることができればよいと思う。写真サークルに依頼して記念写真を撮ってもらい、それを額に入れて漫画家にお渡しするなど、様々な団体とつながりを持ち、漫画家大会議を盛り上げられたらよい。

【E 委員】

○漫画家大会議の中にまんが甲子園の要素を入れることで、別々の2つのイベントということではなく取組みが一气通貫となり相乗効果が期待できる。

【吉村部会長】

○夏期のまんが甲子園で日本一を決めて、春で世界大会というように世界一を決めるのもよいのではないか。また、様々なまんがのコンテストの優勝者などを集めて、天下一武道会のような大会を開くのも面白いのではないか。

【尾崎会長】

○高知のイベントがプラットフォームとなり、アニメも含めまんが界の様々な人材に、高知へ集まっていただける機会をつくっていきたい。

第3号協議 平成30年度「まんが王国・土佐」のブランド化の推進について

【B 委員】

○まんが甲子園の名称に関しては「世界に飛び出せ!!まんが甲子園」等とすると、甲子園の名も残しつつ海外校の参加に対応できるのではないか。

○まんがによる情報発信はインパクトがあり、酔鯨のパッケージに松本零士氏が描いた坂本龍馬が使われ、すごくカッコいい。パッケージにまんがを使うのは非常に効果が高いし、一つのやり方ではないか。

○来年7月にオープンする図書館「オーテピア」に関しては、中四国最大規模の図書館になる。絵本、ティーンズ小説の収集には力を入れるとのことだが、まんがについてはどういったコンセプトで収集するのか確認できていない。年間100万人の来場が見込めるので、まんがの取り扱いについては、県市で協力していければよい。

【J 委員】

○まんが王国・土佐を盛り上げる為には県民の意識を盛り上げることが大切。漫画家大会議では、漫画家に高知ファンになってもらうことが大事で故郷あるいは第二の故郷を高知にするよう毎回案内する（自費で）ことが大事。エンジン01のような人的ネットワークをつくる取組を県内に広げ、地域ごとや商工会議所、商工会、商店街などを巻き込んでマンツーマンで漫画家の応援団のようになり、その地域ならではのおもてなしができるとうい。

【E 委員】

○まんが甲子園は野球の甲子園や箱根駅伝に通じるポテンシャルを持つコンテンツだと感じている。エンターテインメント性を持たせる方法として実況をつけてはどうか。まんがを描く中で生まれるドラマを実況することで、大会が面白く熱いものになる。

○さらに、選手は各県の代表なので、各ブースに生配信用のカメラを設置し各高校にスポットライトを当てられると面白くなるのではないかと。カメラを通じ誰でも応援できるとより広がるのではないかと。

○漫画家大会議については、春のデジタルまんが選抜のような取組が、まんが文化の次の展開につながっていくのではないかと。是非やった方がよいのではないかと。

○まんが甲子園を、春と夏でデジタルと手書きの作品と線引きすることで参加しやすくなる学校もあるのではないかと。

【吉村部会長】

○例えばだが、春のデジタルまんが選抜は、年齢制限がなくてもよいのではないかと。

【I 委員】

○高知をまんがの発祥地にしたいと思うが、そのためには聖地が欲しい。京都の芸能神社では2年に1回お布施を払って名前を貼ってもらう芸能界の聖地がある。土佐まんが神社を作れば世界中の人に来てもらえるのではないかと。

○神社にこだわらなくてよいが、高知出身の漫画家も名前が貼ってあるような形にすれば、聖地化につながるのではないかと。

【尾崎会長】

○神社は行政としてNGだが、聖地を作るというのは良い。

【G 委員】

○ファンは漫画家の顔を知らないで、漫画家大会議では、何々の作品を描いている先生だということが分かるようにすれば、県民の方も楽しめるイベントになるのではないかと。聖地化も、自身が高知出身の漫画家だと名前を出していただけるような親しい関係を作っていくことが必要だと思ふ。

【吉村部会長】

○漫画家大会議では、漫画家の先生に自分の絵を描いた自作のTシャツを着てもらおうとよいのではないか。「声をかけてよい」とか「お酒を飲める」、「飲めない」とか分かるように描いてもらえたら周りの人に分かり易い。

【尾崎会長】

○県立図書館跡の施設の一部をまんが甲子園コーナーにしようと思っていて、まんが甲子園の歴代最優秀作品を見られるようにしようと思っている。併せて、漫画家が実際に使った道具や世に出るきっかけとなった作品の展示をするなど、聖地化要素を加えていきたい。まんがに興味のある方が、常設的に来られるような場としたい。

【B委員】

○大リーグのスーパースターの殿堂入りのようなイメージを持たせることができれば、聖地になる可能性が出てくるのではないか。

【E委員】

○ヘミングウェイがよくお酒を飲んだフロリダというバーに彼が座った席というのがある。例えば高知でも漫画家を通ったバー、泊った宿などを蓄積することで、時間の経過とともにレジェンドのように蓄積されていくと面白い。

(4) 閉 会

次回総会は、来年2月中旬を予定